2002 年 09 月 16 日

PAPERS/REPORTS/PUBLICATIONS LIST

Climate Experts

松尾 直樹[†]

目 次

1. CLIMATE EXPERTS 時代 (2002 年 9 月以降)..... 2

□ 論文 他 (REFEREE なし) 2

DISCUSSION PAPER 2

一般誌掲載.....2

2. IGES/GISPRI 時代 (1998 年 4 月～2002 年 8 月)..... 2

□ 受託・自主研究調査報告書 2

□ 書籍.....2

□ 論文 (REFEREE つき).....3

□ 論文 他 (REFEREE なし) 3

DISCUSSION PAPER 3

一般誌掲載.....6

3. IEE 時代 (1998 年 3 月以前) 8

□ 受託・自主研究調査報告書 (100 P 超) 8

□ 受託・自主研究調査報告書 (100 P 未満) 9

□ 論文 (REFEREE つき).....9

□ 論文 他 (REFEREE なし) 9

4. 物理屋時代 12

[†] E-mail: *n_matsuo@climate-experts.info* Web: *http://www.climate-experts.info/*

1. Climate Experts 時代 (2002 年 9 月以降)

□ 論文 他 (referee なし)

Discussion Paper

- 「Registry と Transaction Log — 無矛盾性および機能とその分担に関する考察」
  2002 年 9 月.

一般誌掲載

- 「炭素制約下社会の新ビジネスモデル — 京都議定書が企業に与える影響」
  日経ビジネスおよび日経エコロジー, 2002 年 10 月号.
- 「CDM 実施をどう捉えるか？ —炭素制約社会におけるビジネスモデル」
  エネルギーフォーラム, 2002 年 10 月号.
- 「Dr. 松尾の CO_2 ゼミナール」, Natsource Japan Letter 連載（毎月, 2001 年 7 月号より）.

2. IGES/GISPRI 時代 (1998 年 4 月～2002 年 8 月)

□ 受託・自主研究調査報告書

- 「柔軟性措置と世銀炭素基金事業: 海外投融資の取り組み可能性」
  （日本語; Report for OECF; with Maruyama, March 1999）
- 「環境関連条約における途上国支援 — 気候変動枠組条約を中心として」
  （日本語; Report for MOFA; with Maruyama,
  先進国の第 2 期および途上国の数値目標部分, March 2001）
- 「京都メカニズムの運用則概要 — 排出権取引を中心として」
  （日本語; GISPRI 排出削減における会計および認定に関わる
  研究委員会報告書, March 2002）

□ 書籍

- 「京都議定書の評価と意味 — 歴史的国際合意への道」マイケル・グラブ等著

（日本語監訳; 省エネルギーセンター刊, 2000 年 11 月）

- “Toward an Integrated Emissions Market of Kyoto Mechanisms
  — Perspective for Future Development”
  (English; in “The U.N. Framework Convention on Climate Change Activities Implemented Jointly (AIJ) Pilot: Experiences and Lessons Learned” (ed. by R. Dixon), Kluwer, 1999)
- “Climate Change Mitigation in Japan” (with Ken Yamaguchi)
  (in “Climate Change: Science, Strategies & Solutions”, Pew Center, ed. by Eileen Clausen, 2001).
- 地球環境 2000-2001（経済発展と地球環境）, 第 1 章, ミオシン出版, 1999.

□ 論文 (referee つき)

- “International Framework on Climate Change after the COP 3
  — Key Elements of the Kyoto Protocol and the Prospects of the Emissions Trading”
  (English, long paper, single, published in Energy in Japan, July 1998, pp.1–35).
- 「日本の民生および運輸用エネルギー消費対策—市場を活用した措置の展望」
  エネルギー・資源, 1998 年 Vol.19, No.4, pp. 317–321.
- “Toward an Integrated Emissions Market of Kyoto Mechanisms
  — Perspective for Future Development”
  (English; in “The U.N. Framework Convention on Climate Change Activities Implemented Jointly (AIJ) Pilot: Experiences and Lessons Learned” (ed. by R. Dixon), Kluwer, 1999)
- “A Proposal on the Supplementarity Issue for Emissions Trading and Joint Implementation”
  (English; Linkage Journal, Vol. 4, No. 3, 1999)
- “The Characteristics of Transport Energy Demand in the APEC Region
  — The Relationship between Transport Energy Demand and Economic Development”
  (English; with IEE researches; in the proceedings of 22nd IAEE International Conference, June 1999, Rome)

□ 論文 他 (referee なし)

Discussion Paper

- “Points and Proposals for the Emissions Trading Regime of Climate Change (version 1)”
  (English; long paper, single) 1998.
- “Points and Proposals for the Emissions Trading Regime of Climate Change
  — For Designing Future System (version 2)” (English; long paper, single) 1998.

- “Outline of the First IGES Brainstorming Forum on Emissions Trading”
  (English, short paper, single, with help of research associates)
- “Issues and Options in the Design of the Clean Development Mechanism”
  (English, long paper; lead author) 1998.
- “A Proposal on the Supplementarity Issue for Emissions Trading and Joint Implementation”
  (English, short paper, single) 1998.
- “How is the CDM Compatible with Sustainable Development?
  — A View from Project Guidelines and Adaptation Measures”
  (English, short paper, single) 1998.
- “Administrative and Compliance Issues Related to International Emissions Trading”
  (English, short paper, JIQ workshop proceedings) 1998.
- 「第1回排出権取引 Brainstorming Forum の概要」
  (short paper, single, with help of research associates) 1998.
- 「気候変動問題における排出権取引等の制度に関する論点と提案 (version 1)」
  (Japanese, long paper, single) 1998.
- 「気候変動問題における排出権取引等の制度に関する論点と提案
  — 新たなシステムデザインに向けて(version 2)」
  (Japanese, long paper, single) 1998.
- 「気候変動問題におけるクリーン開発メカニズムの制度に関する論点と提案」
  (Japanese, long paper, lead author) 1998.
- 「排出権取引と共同実施における補完性問題への対処方法提案」
  (Japanese, short paper, single) 1998.
- 「CDM と持続可能な発展の両立のために — プロジェクトガイドラインと適応措置の視点」
  (Japanese, short paper, single) 1998.
- 「COP4 速報」, (Japanese, short paper, single) 1998.
- 「CDM におけるベースライン設定問題 — 規格化の可能性について」
  （日本語; GISPRI CDM Workshop Proceedings, February 1999）
- “Baseline as a Critical Issue of CDM — Possible pathway to Standardization”
  (English, GISPRI CDM Workshop Proceedings, February 1999)
- “Proposal for Step-by-Step Baseline Standardization for CDM
  — From Project-Specific to Generalized Formula”
  (English; IGES discussion paper) 1998
- 「CDM の段階的ベースライン標準化提案 — 個々のケースからの一般化手法」
  （日本語; IGES discussion paper） 1998
- “Canada NRTEE Domestic Emissions Trading Workshop Report” (March, 1999)
- “CCAP Emissions Trading Dialogue Group Report” (Twice, March and July 1999)

- “Domestic Emissions Trading Regimes in Other OECD Countries” (Several times)
- “Prompt Report and Outline of COP 5” (1999)
- “Proposal for Step-by-Step Baseline Standardization for CDM
  — From Project-Specific to Generalized Formula (version 2.0)”
  (English; January 2000)
- 「導入見込み国の国内排出権取引制度設計 議論の概要 (version 5.1)」
  （日本語; January 2000）
- “Through Reports of Globe 2000 Conference focusing on domestic emissions trading”
  (Japanese; March 2000).
- 「京都議定書遵守に向けての日本の気候変動（地球温暖化）問題国内政策措置枠組み提案 (version 1.0)」 （日本語; June 2000, paper for IGES Open Forum）
- “What is and how to set baselines for CDM projects?”
  (English; July 2000; paper for 10th Asia-Pacific Seminar on Climate Change in Malaysia)
- “Proposal for Step-by-Step Baseline Standardization for CDM”
  — From Project-Specific to Generalized Formula (version 3.0)
  (English; August 2000).
- “Key Elements in Designing a Portfolio of Instruments to Mitigate Climate Change”
  (English; October 2000, paper for KEI-IGES Symposium on Environmental Taxation)
- “A Portfolio of Domestic Instruments for Climate Change Mitigation in Japan to Implement Kyoto Regime (version 1.0)”
  (English, October 2000)
- 「リヨン補助機関会合の概要と印象 — COP 6 の可能性について」
  （日本語; September 2000）
- 「ハーグ会議交渉の読み方ノート — COP 6 をどう理解すればよいか？」
  （日本語; November 2000）
- 「米国提案とプロンク議長新テキスト — 最初の印象」
  （日本語; June 2001）
- 「米国等へ門戸を開いておく方法 — どのようなインセンティブ設定が有効か？」
  （日本語; August 2001）
- “Issues beyond Marrakech — Toward Implementation stage of Kyoto
  (English; IGES Tokyo international workshop paper, November 2001)
- 「日本のレジストリー制度デザイン考察 — 京都議定書批准に向けて」(with Yasushi Ninomiya)
  （日本語; January 2002）
- 「米国新気候イニシアティブの分析 — ブッシュ政権の気候変動問題に対する考え方」
  （日本語; March 2002）

- 「安全弁(SAFETY VALVE)アプローチについて」（with Yasushi Ninomiya）
  （日本語; May 2002）
- 「気候変動問題対応　日本国内政策措置ポートフォリオ提案
  ― 日本企業が温暖化ビジネスで勝ち組になれるための戦略的制度設計」
  （日本語; July 2002）

一般誌掲載

- 「排出権取引に関する議論と展望」
  季刊　環境研究，1998 年 No. 110，pp. 45–48.
- 「京都議定書の評価と今後の課題」
  NIRA 政策研究，1998, Vol. 11 No. 10，pp.45–47.
- 「気候変動問題における科学的知見と政策決定との相互作用」
  1998 年 9 月，環境経済政策学会　学会発表用原稿（出張で発表不可）.
- 「国内排出権取引制度の割当における課題」
  1998 年 9 月，環境経済政策学会　学会発表用原稿（出張で発表不可）.
- “Achieving Harmony between the Economy and Climate Change”,
  Mitsui in Action, July/August 1998, Vol. 35 No. 4.
- 「地球環境問題とエネルギー」
  1998 年 8 月. エネ研　石油情報センター　石油事情研修会.
- 「地球環境問題とエネルギー」
  1998 年 9 月. 日本エネルギー経済研究所　エネルギー基礎講座.
- 「排出権取引・共同実施（CDM 含む）の具体化に向けての動き」
  エネルギー資源学会　講習会，1998 年 10 月.
- 「京都議定書国際制度検討会（環境庁），中間報告書」
  1998 年 10 月. 委員として参加. 英語バージョンあり.
- 「排出権取引・共同実施/CDM の論点整理」，共同実施等検討委員会（通産省）　中間報告書
  1998 年 6 月. 委員として参加. 英語バージョンあり.
- “NZ 2nd National Communications の In-Depth Review Report”，政策措置の部分を担当.
- 「京都メカニズムの将来展望　―　排出権マーケットによる排出抑制に向けて」
  環境研究，No. 113, 1999.
- 「京都メカニズムの意味と排出権取引について」;
  コージェネレーション，Vol. 14, No.2, 1999.
- 「京都メカニズムの概要と排出権取引制度について　― COP 4 の概要から将来の課題へ」;
  産業とエネルギー，August 1999.
- 「気候変動問題　国際動向の視点　― COP 5 に向けての課題」,
  動力，1999.

- 「COP 5 の意味合い」;
  日経エコロジー, December 1999.
- 「2002 年発効に立ちはだかる Y2K の COP 6 と米大統領選」;
  朝日サイアス, December 1999.
- 「21 世紀のエネルギーと地球温暖化問題 — 京都議定書とそれ以降の枠組み」
  （日本語; 国際資源 1 月号）
- 「排出権取引や炭素税の現状とその政策措置としての意味」
  （日本語; 季刊環境研究 117 号; February 2000）
- 「米国の気候変動問題への取組 — 排出権市場を巡る政府/議会/企業の思惑」
  （日本語; 国際資源 5 月号, with Junko Ogawa）
- 「排出権取引制度動向 — ビジネスの視点から」
  （日本語; 三井物産第 12 回セミナーテキスト; April 2000）
- 「COP 6 に向けて — 排出権取引を巡る動向」
  （日本語; 21 世紀フォーラム 74 号; July 2000）
- "Scientific and Economical Aspects of Climate Change"
  (English; ADB/UNEP Capacity Building Seminar; July 2000)
- 「地球温暖化問題への対応の視点 — その科学的理解と行動に向けて」
  （日本語; 産業と環境; July 2000）
- 「京都レジームを見越した国際温暖化対策プロジェクト(JI/CDM)への期待
  — 市場メカニズムと温暖化対策の融合」（日本語; 土木学会; August, 2000）
- 「国内排出権取引制度設計のポイント」
  （日本語; November 2000, http://eneken.ieej.or.jp/）
- 「ボン合意の新たなビジネスチャンスとしての視点
  — 炭素制約下社会におけるビジネス展開の考え方」
  （日本語; エネルギーフォーラム; September 2001）
- 「COP 7 後の日本の課題と対応 — 実施フェーズにおける戦略設計」
  （日本語; 化工日報; October 2001）
- 「排出権取引の理念と実際 — 環境規制？それとも新たなビジネス機会？」
  （日本語; 昭和 Shell Quality; October 2001）
- 「京都議定書の運用則とその日本企業にとっての意味
  — COP 7 以降の電気事業者の戦略策定の視点」
  （日本語; 電気協会学会誌; January 2002）
- 「地球温暖化対策をめぐる諸問題 —「実施ステージ」における日本の課題」
  （日本語; 産業と環境; January 2002）
- 「京都議定書発効までの道程と国内制度の視点 — 地球温暖化問題対応はどうなるのか?」
  （日本語; 日本建築学会誌; February 2002）
- 「IPCC 第 3 次評価報告書の意義 — 科学から政策へのインプットのあり方」

（日本語; RITE Now; February 2002）

- 「米国新気候イニシアティブの分析 ― ブッシュ政権の気候変動問題に対する考え方」
（日本語; エネルギーフォーラム, March 2002）

3. IEE 時代 (1998 年 3 月以前)

□ 受託･自主研究調査報告書 (100 p 超)

- 「環境税および排出権取引に関する調査」
1997 年 3 月 (370 p), シングル.
- 「最適ごみ発電システムの構想策定に関する調査研究報告書
― 栃木県をモデル地域とした RDF 発電導入可能性調査」
1996 年 3 月 (153 p), 共著.
- 「原子力発電の将来展望に関する調査
― わが国の長期的な望ましい電源構成と原子力発電」
1996 年 3 月 (113 p), 共著.
- 「気候変動枠組条約における共同実施に関する調査研究報告書」
1995 年 3 月 (113 p), 共著.
- 「地球温暖化問題に関する経済的分析」
1994 年 8 月 (220 p), シングル.
- 「アジアにおけるエネルギー/環境問題の現状と国際協力の課題
― 大気汚染問題を中心として」
1994 年 3 月 (131 p), 共著.
- 「気候変動枠組み条約調印後の各国の対応動向 ― 地球温暖化問題とエネルギー需給」
1993 年 11 月 (193 p), シングル.
- 「先進主要国におけるエネルギー税制の現状と環境税導入の動き」
1993 年 3 月 (382 p), 共著.
- 「主要国における CO_2 排出の部門別要因変化」
1993 年 3 月 (244 p), 共著.
- 「地球温暖化問題とグローバル経済モデル II
― CO_2 排出抑制に関するシミュレーションの比較分析」
1992 年 11 月 (215 p), シングル.
- 「地球温暖化問題とグローバル経済モデル
― CO_2 排出抑制に関するシミュレーションの比較分析」
1992 年 9 月 (200 p), シングル.

- 「わが国における再生可能エネルギーの導入と環境負荷軽減にかかわる可能性調査」
  1991 年 7 月 (159 p), シングル.

□ 受託・自主研究調査報告書 (100 p 未満)

- 「COP 3 以降の気候変動問題に関する国際的枠組み
  —京都議定書と排出権取引の展望」
  1998 年 1 月 (60 p 程度), シングル.
- 「わが国の電力産業の規制緩和とその展望」
  1996 年 7 月 (61 p), シングル.
- 「急増する ASEAN 諸国の電力需要と供給体制 — 電気事業の民営化と外資導入の動き」
  1995 年 5 月 (48 p), 共著.
- 「枠組み条約発効後のグローバルな温暖化抑制政策動向
  — 議定書や共同実施などのインプリケーション」
  1994 年 10 月 (39 p), シングル.
- 「欧米諸国の気候変動枠組み条約に対する取り組み動向
  — 間近に迫った条約発効に向けての各国の姿勢を探る」
  1993 年 11 月 (34 p), 共著.
- 「中国のエネルギー事情と環境問題」
  1993 年 5 月 (40 p), 共著.
- 「グローバル・モデルによる炭素税の分析結果の比較」
  1992 年 10 月 (9 p), シングル.
- 「地球サミット後の温暖化問題の視点」
  1992 年 7 月 (32 p), シングル.

□ 論文 (referee つき)

- "A Proposal for the Protocol(s) on Climate Change
  — For the Innovative and Substantial Quantified Objectives"
  Energy Policy, 1997 年, Vol. 25, No. 2, 173－184, シングル.
- "Key Elements Related to the Emissions Trading for the Kyoto Protocol"
  Energy Policy, シングル.
- 「エネルギー税制の現状と環境税導入の動向」
  エネルギー・資源, 1993 年 Vol. 14, No. 5, シングル.

□ 論文 他 (referee なし)

- Canada 1st National Communications の In-Depth Review Report, 政策措置の部分を担当.

- 「炭素税の現状とその政策オプションとしての位置付け」
  第 14 回エネシステム･経済コンファレンス, 1998 年 1 月, シングル.
- 「地球温暖化問題における排出権取引の意義と展望」
  第 14 回 エネシステム･経済コンファレンス, 1998 年 1 月, シングル.
- 「COP3 以降の米国の今後の戦略 — 7%削減の背景」
  エネルギーフォーラム, 1998 年 1 月, シングル.
- 「COP3 京都会議と今後の展望」
  動力, 1998 年 1 月, シングル.
- 「地球温暖化問題の動向と対応」
  産業教育, 1997 年 1 月, シングル.
- 「地球温暖化問題における排出権取引とその展開
  — COP3 以降の国際的枠組みについて」
  エネルギー経済, 1997 年 11 月, シングル.
- "Energy Conditions in Japan and the Challenge of Global Warming"
  Journal of Japanese Trade and Industry, 1997 年 11/12 月, シングル.
- 「COP3 議定書に向けた国際交渉の動向と排出権取引」
  月刊 keidanren, 1997 年 10 月, シングル.
- 「地球温暖化問題の理解と新たな対策の視点 — 気候変動の認識論と排出権取引」
  産業と環境, 1997 年 9 月, シングル.
- 「京都議定書に向けての排出権取引に関するキーエレメント」
  1997 年 2 月, シングル.
- 「わが国の長期的な望ましい電源構成と原子力発電—原子力発電の将来性に関する調査」
  エネルギー経済, 1997 年 1 月, シングル.
- "Deregulation of Japan's Electric Utility and Its Prospects"
  Energy in Japan, 1996 年 11 月, シングル.
- 「地球温暖化問題の視点ｱｱ気候変動の脅威をどう認識すべきか」
  1996 年 8 月, シングル.
- 「気候変動問題に関する議定書プロポーザル — 刷新かつ実質的な数量化目標に向けて」
  1996 年 6 月, シングル.
- 「エネルギー消費がもたらす地球環境への影響」
  産業と環境, 1996 年 6 月, シングル.
- 「共同実施の意義とその国際的展開と現状」
  エネルギーフォーラム, 1996 年 3 月, シングル.
- 「ASEAN 諸国の電気事業の民営化と外資導入の動き」
  JETI, 1995 年 11 月, シングル.
- "Transforming Electric Power Sector in ASEAN Countries"
  Energy in Japan, 1995 年 9 月, 共著.

- 「地球温暖化問題の視点におけるエネルギー」
  日本原子力文化振興財団月報，1995 年 2 月.
- “Trends of the Global Climate Change Policies after Entry Force of the UNFCCC”
  Energy in Japan，1995 年 1 月，シングル.
- 「温暖化抑制における共同実施スキームの課題と可能性」
  第 11 回 エネシステム･経済コンファレンス，1995 年 1 月，共著.
- 「Global Environmental Issues and Energy Efficiency Improvement」
  US-Japan Energy Policy Consultations Paper, 1994 年 3 月，共著.
- 「アジアにおけるエネルギー/環境問題の現状と国際協力の課題
  — 大気汚染問題を中心として」
  第 10 回 エネシステム･経済コンファレンス，1994 年 1 月，共著.
- 「エネルギーと地球環境問題」
  (財) 日本エネルギー経済研究所基礎講座，1993 年 8 月，シングル.
- “Energy Policy of Japan
  — Implications and Opportunities from the Climate Change Convention”
  Asian Energy Institute Workshop，1993 年 7 月，シングル.
- “Post-Earth Summit Views on Global Warming”
  Energy in Japan，1992 年 11 月，シングル.
- 「地球サミット後の温暖化問題の視点」
  エネルギー経済，1992 年 10 月，シングル.
- 「分散型社会システムと温暖化抑制のための市場経済的手段」
  資源環境対策，1992 年 1 月，シングル.
- 「もう一つの発展と分散型社会システム」
  1991 年 8 月，シングル.
- 「わが国における再生可能エネルギーの導入可能量とそのインパクト」
  エネルギー経済，1991 年 6 月，シングル.
- 「日本における再生可能エネルギーの導入見通し」
  第 7 回 エネシステム･経済コンファレンス，1991 年 1 月，シングル.
- 「地球温暖化問題の視点」
  エネルギー経済，1990 年 10 月，シングル.
- 「水素エネルギー経済システムへのアプローチ」
  1990 年 1 月，シングル.

4. 物理屋時代

- “Einstein Gravity as Spontaneously Broken Weyl Gravity”
  General Relativity and Gravitation, Vol. 22, No. 5, 1990, シングル.
- 「Weyl 重力理論の自発的破れによる Einstein 重力理論の導出」
  素粒子論研究, 1988 年 10 月, 78-1, シングル.
- “Superstring Thermodynamics and Its Application to Cosmology”
  Z. Phys. C., 36, 1987, シングル.
- “Very Early Universe Based on Closed Superstring Theories”
  Prog. Theor. Phys., Vol. 77, No. 2, 1987, Feb., シングル.
- “A General Formula for the Thermodynamical Potential in Even Dimensions”
  OU-HET 134, 1991, April, シングル.
- “Einstein Gravity as Spontaneously Broken Weyl Gravity”
  Proceedings of the 5th Marcel Grossmann Meeting on General Relativity, 1989, World Scientific, シングル.
- “N=1 Poincaré Supergravity Dynamically Emerging from Quantum Conformal Supergravity”
  RIMS-658, 1989, April, シングル.
- 「Conformal Supergravity Theories（共形的超重力理論）」
  素粒子論研究 72-1, 1985 年 10 月, シングル.

以上